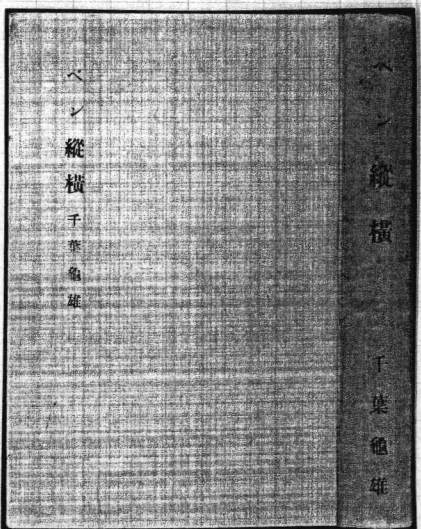


千葉龍雄 りゆうきゅう 評論家。明治十一年九月二十四日山形縣生れ、昭和十年十月四日歿（二六六一九三五）。筆名うきふね、かわき、くれがし、ころとろ生、だそがれ、チバカメヲ、ちば生、ぶくしふ郎、まきばしら、みきづくし、倚一・倚二、倚一・倚二、倚一・倚二、倚樓、倚樓・倚一、倚樓・倚一・倚二、十五諸侯生、千葉江東、千葉生、千葉花明、松坊兒新次郎、松風琴、樹上月下人、江東、江東の人、江東・江一・江二、江東生、江東野老、白雲縹紗生、莫愁生、莫愁郎、莫愁騎士、覆面武者、鐵面樓、零丁兒、霹靂火、飛火の野守、飯谷子、麥州、麥秀、麥秀生、麥舟郎、龜生、龜雄等。東京專門學校等公學卒。雜誌「文庫」、新聞「日本」等の記者を経、（りゆうきゅう）「國民新聞」、（りゆうきゅう）「讀賣新聞」、（りゆうきゅう）「東京日日新聞」等で社會・文藝部長、編輯局長を歴任。この間文藝評論の他、婦人問題等にも言及。大正十三年横光利一、川端康成等の文學を「新感覺派」と命名。

著譯書「水あふひ」（うきふね名、合著、明治二十二年二月二十九日内外出版協會）、（りゆうきゅう）「いざよひは」（千葉江東名、明治二十六年十月五日太平洋館）、（りゆうきゅう）「惱みの近代藝術」（大正十二年一月二十日）松堂書店「表現叢書」、（りゆうきゅう）「異性を観る」（大正十二年五月十五日黎明社）、

「新聞講座」（大正十四年五月十五日金澤堂）、（りゆうきゅう）「旋風」（合作、大正十五年十一月二十八日東京朝日新聞發行所）、（りゆうきゅう）「越石垣會」第二輯（合著、二越石垣會編、昭和二年二月二十五日）二越石垣會）、（りゆうきゅう）「ツコ作」の戰の人々（譯、昭和五年二月五日平凡社）「世界プロレタリア傑作選集」、（りゆうきゅう）「現代世界文學篇」（合著、上卷、昭和五年五月二十八日、下卷、九月二十三日新潮社）「世界文學講座」、（りゆうきゅう）「新日本仇

討』(昭和八年二月)千白大入社)、コレリ作ワヅエシデツタ』(撰
 昭和八年二月十八日改進黨「世界大衆文學全集」)、『思想問題の展
 望と批判』(合著・思想問題研究會編、昭和六年五月一日社會教育
 會)、『現代チャーターリズムの理論と動向』(合著、昭和六年十月
 十五日内外社)、『婦人と文藝』(昭和七年五月一日社會教育協會
 「婦人講座」)、『最近の文學・文章研究と國語教育』(合著・千葉
 春雄編、昭和七年十月)二十日淳生圖書店)、『現代世界文學概觀』(昭
 和八年四月十日新潮社「新潮文庫」)、『新聞十六講』(昭和八年四
 月)千白金堂)、『新聞語辭典』(編、昭和八年十月一日栗田書
 店)、『ペン縦横』(昭和十年九月)二十日岡倉書店)等。



ペン縦横 千葉春雄編

ペン縦横 千葉春雄編